

Title	長寿型企業の研究
Sub Title	
Author	呉イエン根 柳原一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1996
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1996年度経営学 第1242号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001996-1242

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

呉 衍根 (三星電気株式会社)

主査 柳原 一夫

尾崎 佳英

副査 古川 公成

森川 英正

所属

柳原 一夫 研究室

長 寿 型 企 業 の 研 究

本研究は企業が長期的に安定成長するための戦略的特徴を明らかにし、それらの戦略が長年にわたり継承されているしくみを事例研究により解き明かそうとするものである。これらの企業を本研究においては長寿型企业と呼んでいる。長寿型企业とはさまざまな経営環境の変化に対し十分に耐えられるシステムをしくみとして備えている企業である。

事例対象となる長寿型企业の選定に関しては、バブル期を環境変化と位置付け、バブル景気からバブル崩壊における経営に着目している。つまりバブル崩壊によるリストラなどの経営問題を抱えることなく安定的に存続している企業を事例として取り上げ長寿型企业の仮説に基づいた検証を実施することにより戦略的特徴を解明している。

これらの検証から、これまでの経営システムにみられるシェア拡大などの競争市場戦略は、短期的優位性を築き上げたとしても長期的に見ると重大な問題を内包することが明らかとなった。つまり、拡大成長戦略は市場を短期に飽和させ、プロダクトライフサイクルの短縮化と人員削減をはじめとするリストラを促進するという逆効果をはらんでいた。

一方、長寿型企业においては生産システムにおける独自性などの長期的競争優位性が存在し短期的成長、規模の拡大が第一条件ではないことが明らかとなった。

執筆責任者：尾崎佳英